

平成27年度 第54回岐阜県学校保健研究大会を終えて

かも学校保健会

絶好の秋日和の中、10月25日に、加茂郡富加町タウンホールとみかにおいて、県内から約380名の学校保健関係者を得て、大会は開催されました。

開会式では、岐阜県学校保健会・河合会長の挨拶や来賓の富加町・板津町長のご祝辞などに続いて県学校保健会表彰、学校環境衛生活動優良校表彰などが行われました。

次いで、『心身ともに健康でたくましい子の育成』という大会テーマのもとに、三部構成で研究発表が行われました。加茂郡養護教諭部会の「望ましい生活習慣を身に付け、健康でいきいきとした生活を送ることができる児童生徒の育成」を研究テーマとした発表では、3つの研究内容についての実践結果が発表されました。1つ目は、児童自身が主体となった委員会活動の実績と成果について、2つ目は、小・中学校と保健センターが連携した朝食指導で、小学生の考えた朝食レシピをもとに中学生が調理し、それを児童生徒で試食する取り組みについて、3つ目は、養護教諭が委員会活動に積極的に関わることで、生徒が健康によい睡眠ができるように促した取り組みについての発表でした。続いて、美濃加茂市・加茂郡 栄養教諭・学校栄養職員部会の「望ましい食生活を実践できる児童生徒を目指して」を研究テーマとした発表では、地元根付いている郷土食を献立に取り入れることで、食に対する関心を高め、家庭と連携してお奨めの朝ごはんを提案し、また子どもの成長に特に必要な鉄分やカルシウムの上手な摂取方法についての研究発表が行われました。児童生徒の食への興味や、家庭での関心も高まっているそうです。最後に、加茂医師会の「小・中学校における感染症対策」を研究テーマとした発表では、比較的閉鎖的な山間部の小規模校においての、インフルエンザ感染経路の分析が緻密に行われ、その結果をふまえて、学校での学級閉鎖の必要性を説き、それを少なくとも3日間から5

日間行う必要があると結論づけました。また、ワクチンについては明らかな流行の抑止が認められなかったことから、それだけに頼らず幅広い予防対策が必要であると提言しました。

その後のお昼の休憩中には、アトラクションとして、坂祝保育園園児によるフラッグの演技が行われました。大きなフラッグを手に持ち、広いステージいっぱいに行進したり、フラッグを振ったりする姿は、大変ほほえましく、客席の一人ひとりの気持ちを和ませてくれました。

午後には、義肢装具士・堀江耕太氏による記念講演が「今、わたしにできること」という演題で行われました。義足を使用しているゲストの方と90分にわたって実技やプレゼンテーション、VTRなどを交えて分かりやすく話していただきました。特に、義肢の着脱のしやすさやその歩行状態の自然な感じなど、現在の義肢製作技術の精巧さに目をみはりました。また、スポーツ仕様の義肢の方が健常肢より運動能力が高いという話には驚かされました。

このように、とても有意義で大変充実した大会となりましたのも、関係者の皆様の多大なるご協力とご支援の賜物と心より感謝致します。

最後に、今後も岐阜県の学校保健教育のますますのご発展を祈念致しまして、第54回岐阜県学校保健研究大会の報告と致します。

